

(旧岩舟町内)

史跡めぐり

～歩いて、実物を見て、歴史に思いを馳せよう！～

歴史の宝庫である「旧岩舟町内」を、ゆっくり一日、時間をかけて訪問します。

今回、岩舟町内歴史家の方の案内による、「岩船山高勝寺」や慈覚大師「円仁」に係る、歴史ロマンあふれる“いわふね”の魅力に迫ります。

岩舟公民館では、皆様の参加申し込みを待っています。

日時

9月30日(水) 午前9時30分～午後3時30分頃まで

(※岩舟公民館「西ロータリー駐車場」、午前9時集合ください。)

日程
訪問
先

午前＝岩船山訪問【地蔵堂・頂上みはらし広場・三重塔・仁王門

賽の河原堂・鐘楼堂・地の池地獄・本堂】

午後＝慈覚大師「円仁」ゆかりの地訪問

【誕生地・御母公の墓・小野寺禅師太郎道綱の墓

小野寺城跡・住林寺・大慈寺・ライシャワー大師碑

村檜神社・小野小町墓】

受講料

無料(但し、昼食代1,000円、当日頂きます。)

定員

25名
先着順

申込
問合せ先

栃木市岩舟教育支所岩舟公民館

TEL(0282)55-2500

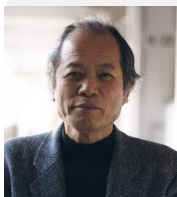
9.15 旅する岩舟地藏

日

岩船山から遠く離れた関東南部や中部地方でも、岩船地藏と呼ばれる石造りの地藏が建てられています。その姿はどこも船に乗った地藏の姿で、しかも、建立年次は江戸時代中ごろのわずかな間に限られています。

そこで、各地に見られる岩船地藏と岩船山高勝寺の岩船地藏の関係や、なぜ関東から中部地方にかけての広い地域で岩船地藏が建てられたのかを明らかにし、岩船山の岩船地藏が江戸時代の特定の時期に関東地方から中部地方へと大流行した謎に迫ります。

民俗学者 福田アジオ 氏



9.22 円仁、3つの旅

日

円仁様を語る上で忘れてはならないことがあります。

それは、円仁様には入唐求法の旅に先立つ二つの旅があったことです。その旅こそが、仏教が民衆のものとなる旅そのものだったのです。

今回は旅の話を中心に、円仁様の歩んだ道のりを紹介します。また、円仁様と足跡を同じくし、円仁様の生き方に影響を与えた人々にもスポットを当てていきます。

群馬県立女子大学群馬学センター副センター長 熊倉浩靖 氏



10.6 慈覚大師円仁

日

—その生涯とゆかりの名宝—

慈覚大師円仁は中国に渡り、苦難の求法の旅の末帰国し、最新の仏教を日本に伝え広めました。その功績は日本仏教史に多大な影響を与え、日本最初の大師号を贈られた郷土が誇る人物です。

今回は以前、県立博物館で行った展覧会を基に、円仁に関する貴重な文化遺産(名宝)を紹介しながら、円仁の人物と生涯、行跡をたどります。

元栃木県立博物館人文課長

天台宗観音寺住職 千田孝明 氏



10.13 若き日の円仁が学んだ岩舟

日

—1200年の時を超えた寺と窯跡—

岩舟町には、古代の窯跡がたくさんあります。講演では、自分で歩いた遺跡を中心に、これらの窯跡と採集した古代の瓦を紹介します。

また、慈覚大師円仁が学んだ大慈寺をはじめ、いくつかの古代・中世の寺院がありました。ほかにも古代官道である東山道が東西に通過しており、こうしたバックグラウンドにも触れてみたいと思います。

学悠館高校卒業生 竹澤 渉 氏



11.16 小野寺氏について(仮題)

土

現在、小野寺を姓とする人々が全国に展開しています。その主なルーツは、岩舟町小野寺を本拠地としていた武士にあると言えるでしょう。

小野寺氏は、藤原秀郷の子孫で、源平合戦から鎌倉幕府成立のころに勢力を伸ばし、東北地方に領地を持つ一族も現れてきました。

岩舟町にゆかりの深い小野寺氏の動向に注目し、中世東国武士の社会を見てみましょう。

宇都宮高校通信制教頭 荒川善夫 氏

○時 間／午後2時00分～3時30分

○会 場／コスモスホール

(岩舟町文化会館)

○受講料／無料

○申込方法／郵送・電話・電子メールにて下記まで。

○申込・問合せ

TEL (0282) 55-2500

岩舟町中央公民館

〒329-4307 栃木県下都賀郡岩舟町静 2292-1

koumin@town.iwafune.tochigi.jp